

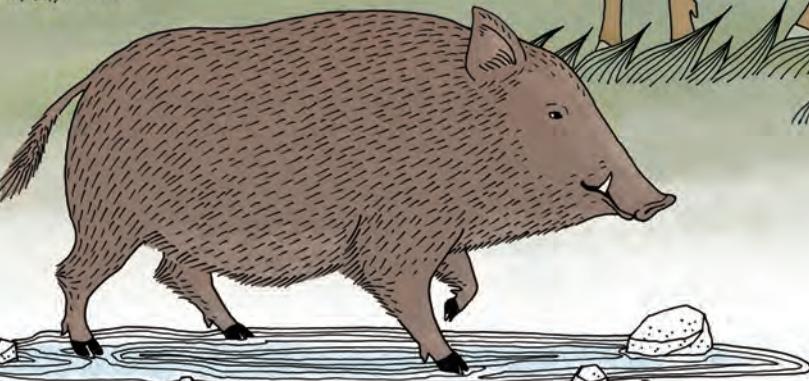
天然の食材を
美味しく生かす
**国産ジビエで飲食業の
未来を元気に**

日本ジビエ振興協議会理事長
藤木徳彦 氏インタビュー

国産ジビエを使うためのポイント

- 仕入れについて
- 保存方法
- 器具・容器の衛生管理
- 調理で気をつける火入れのポイント

国産ジビエ 取扱いの基礎知識



国産ジビエで
集客アップ！

国産ジビエに関する団体・研究会

NPO法人日本ジビエ振興協議会	http://www.gibier.or.jp/
信州ジビエ研究会	http://www.shinshu-gibier.net/association
くまもとジビエ研究会	http://kumamoto-gibier.com/study.html
わかやまジビエ振興協議会	
いなばのジビエ推進協議会	http://inabagibier.jp/
ふくおかジビエ研究会	http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/gibiertachiage.html

国産ジビエ仕入れ先

信州富士見高原ファーム	長野県富士見町	☎0266-65-3213
君津いのか食肉加工組合等施設	千葉県君津市	☎0439-70-9229
ヤマモトフードセンター	静岡県伊豆市	☎0558-87-0818
谷口精肉店	静岡県伊豆市	☎0558-72-0537
水口精肉店(店頭販売のみ)	静岡県伊豆市	☎0558-98-0155
株式会社豪匠	静岡県伊豆の国市	☎0558-76-1333
奥三河高原ジビエの森	愛知県設楽町	☎0536-83-2114
いの屋	和歌山県和歌山市	☎073-461-5102
古座川町鳥獣食肉処理加工施設	和歌山県古座川町	☎0735-72-6006
地美恵の郷みまさか	岡山県美作市	☎0868-75-4400
わかさ29(にく)工房	鳥取県若桜町	☎0858-71-0429
一般社団法人宗像観光協会	福岡県宗像市	☎0940-62-3922
いかくら阿久根	鹿児島県阿久根市	☎0996-79-3626

平成28年度鳥獣利活用推進支援事業(農林水産省)

発行元： **ぐるなび**

協力：国産ジビエ流通規格検討協議会

埼玉県三郷市谷口 677-1 TEL.048-951-0123 FAX.048-954-3645

天然の食材を美味しく生かす 国産ジビエで飲食業の未来を元気に

ジビエはフレンチにおける高級食

材。主に海外から空輸されていたが、今では日本各地で獲れたシカやイノシシなども手に入るようになつた。各種業態で国産ジビエが活用され始め、消費者の注目度や期待度も予想以上に高くなっている。

シェフでありますながら国産ジビエの活路を拓き、普及のために東奔西走している藤木徳彦氏にお話を伺つた。

国産ジビエが飲食業のトレンドになるといわれていますが、何から実感できますか。

藤木 大きなところでは、ジェイアール東日本フードビジネスが、2011年よりエキナカ店舗でジビエメニューの提供を始め、2014年以降



(上) 藤木シェフがレストランで提供している、「鹿肉のポワレ 初夏バージョン」。(左) 自家製信州産仔イノシシの骨付き生ハム。

は「信州ジビエ鹿肉バーガー」「信州鹿肉ジビエドック」などメニュー数や提供数も大幅に増加しました。大きな話題になるとともに、利用者から大好評だつたことで2015年も継続し、さらに今年は信州の夏鹿も活用することなつたんです。

駅という立地もあり、消費者への国産ジビエの知名度も格段とアップし、非日常の食材というイメージから、身

近に食べられる食材ということでも印象づけられたと思います。そのほかファミリーレストランや個店で国産ジビエを使つているところも年々、増えています。

シェフという立場から、国産ジビエの食材としての実力をどう思われていますか。

藤木 私が初めて信州の鹿肉を食べたのは、オーベルジュオーブン2年目の1999年でした。地元の知り合いから冷凍の鹿肉をいただいたのですが、とても美味しく、感激しました。店で地元のジビエということで提供したと

ころ、大変に喜ばれ、厳冬期でも信州

ジビエ料理を楽しみに、遠くから来店いただけるように。都会の食通のお客様たちからも認めていただける、素晴らしい食材だったということです。

なぜ、各地でセミナーを開催するなどの活動をされるようになつたのですか。

藤木 信州ジビエのお陰で、厳冬期も客足は遠のきませんでしたが、そのことが2004年当時、長野県知事だった田中康夫氏の目にとまり、県から地元の「食材で地域おこし」の先例としてイベント開催の依頼があつたのです。このことがマスコミなどに取り上げられ、やはりシカやイノシシが獲れる各地からの依頼があり、セミナーなどを上げるなど活動を始めたのです。

日本ジビエ振興協議会を立ち上げられた理由をお聞かせください。

藤木 飲食店に国産ジビエをもっと活用いただくためには、流通や規格などを整えていく必要があります。最初にお話ししたエキナカのお店で提供していただけには、大量のシカ肉やイノシシ肉を確保しなければいけないですし、品質も揃つていなければ商品になりません。そ

うした問題点もクリアしていくために

引き受けするようになりました。

そうしたなか、現代では増えすぎた野生のシカやイノシシが農林業や自然環境に大きなダメージを与え、害獣となつていていること。店舗で国産ジビエを提供するためには、家畜の精肉とは違った衛生面でのルール化と啓蒙が必要なことなどが見えてきました。調理の難しいジビエは、安全を確保しながら美味しく加工調理する方法の普及も不可欠なため、各地で講習会を行なつてきました。

藤木 飲食店が国産ジビエを取り入れることは集客効果に加え、社会貢献にもなるのですね。

藤木 もちろんです。国産ジビエを利

用することで日本の野山の自然保護になり、また国産ジビエを使った美味しい料理を提供いただくことで、国産ジビエの有効活用を消費者にPRいただける。さらには、利用しやすい流通のシステムや規格の構築においても、シェフの意見が、何よりも重要な役割を果たします。一人でも多くのシェフにこの活動に参画いただき、皆で国産ジビエの食文化を作り上げていきたくなっています。一人でも多くのシェフにこの活動に参画いただき、皆で国産ジビエの食文化を作り上げていきたくなっています。そのことが、必ずや日本の飲食業の未来を元気にすることになると、大きな希望を抱いています。



藤木徳彦氏『オーベルジュ・エスピワール』(長野県蓼科高原)のオーナーシェフ。特定非営利活動法人日本ジビエ振興協議会理事長。著書に『フレンチで味わう信州12ヵ月』『旨いぞ! シカ肉へ捕獲、解体、販売、料理まで』『僕が伝えたい山の恵み』がある。

ジビエ保存のための温度管理

ジビエの精肉を保存する時は、2つのポイントに気をつけよう。

POINT 1

保存の温度は、冷蔵保存ならば10°C以下で。
冷凍保存はマイナス15°C以下。

冷蔵保存



10°C
以下

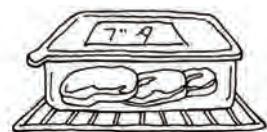
冷凍保存



マイナス
15°C
以下

POINT 2

鶏豚牛などの家畜の肉と、しっかり区別して保管すること。



ジビエで使った器具や容器は、衛生第一！

ジビエで使った器具や容器は、使い終わったら速やかに洗って消毒すること。

消毒は、「A 83°C以上の湯」または「B 200ppm以上の次亜塩素ナトリウム*」で！

器具や容器は他の食材と一緒に使わずに、使い分けよう。

A 83°C以上の湯



B 200ppm以上の次亜塩素ナトリウム



国産ジビエを使うためのポイント

日本でも、ますます高まるジビエ人気。飲食店にとっては集客をアップできる、これからがますます楽しみな食材だ。しかし実際にジビエ料理を提供する時には、シェフとして国産ジビエを扱う際の注意点をクリアしておかなくてはいけない。そのポイントを、ジビエに関する厚生労働省のガイドラインをもとにまとめてみた。

仕入れでは、ジビエのトレーサビリティを確認！

家畜の精肉と違い、ジビエの精肉は、まだハンターなどが捌いているケースも多い。飲食店が、その精肉を使って料理を提供することは違法になることをお忘れなく。そこで安全確保のために重要なポイントは2つ！

POINT 1

食肉処理業の許可を受けた施設で処理された精肉(下記○のもの)を使用すること。その際、個体の捕獲から出荷までの履歴管理情報を仕入れ先に確認しておこう。

さらに安全安心な肉を仕入れるために、

精肉時に金属検出器チェック

(散弾銃有無など)もされているか

確認することが、より望ましい。

また、この履歴管理情報は適切な期間、
仕入れ先で保管(1~3年)されている。



飲食店は、万が一の場合にトレーリティを確認できるように、商品ラベルなどを1ヵ月ほど保管しておこう。



出典:信州ジビエ衛生管理ガイドライン・衛生マニュアル

POINT 2

トレーサビリティが整っていても、
鶏豚牛と同様に、仕入れた肉の状態
(色・臭い・異物の付着)を、
シェフの目でチェックすることはいうまでもない。

色
臭い
異物の付着

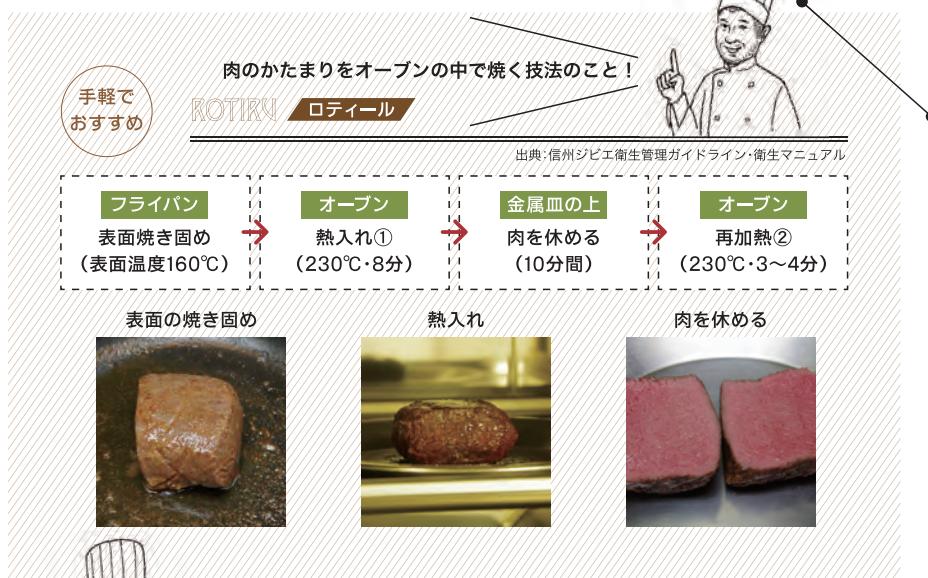
をチェック！



注意

生食は寄生虫の感染や腸管出血性大腸菌、E型肝炎ウィルスへの感染のリスクがある。必ず中心部の温度が75°Cで1分以上の加熱が必要！！(P6-7参照)

フレンチでの加工調理例として



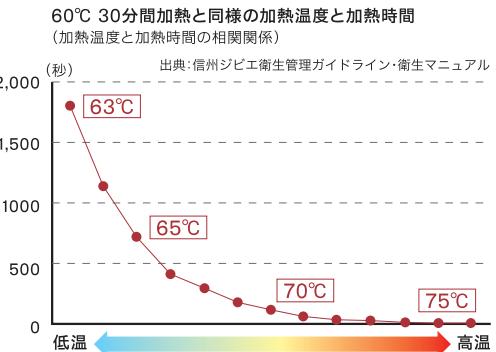
以上、P6～7ご紹介したのは長野県衛生部によるフレンチの手法でのチェック結果だ。
これを参考に、厚生労働省のガイドラインに沿った、貴店での調理方法を組み立てよう。

調理の時に気をつける火入れのポイント

きちんとしたプロフィールのジビエを仕入れ、保存や調理器具の衛生に気を配っても、調理の時の「加熱の仕方」が不足し、食中毒やE型肝炎などのウィルス感染になってはすべて台なしに！“火が通っているけれど、やわらかく美味しい”状態をつかもう。

厚生労働省のガイドラインでは

「中心部の温度が75°Cで1分以上、またはこれと同等以上の効力を有する方法」としている。特に鹿肉などは火を通しすぎると固くなったり、パサついたりするので焼く場合はこの温度管理が大きなポイントになる。



POINT 1

グラフからわかるように、63°Cで30分加熱から75°Cで1分加熱までの範囲が、おおよその目安となる。

POINT 2

調理品内部の温度を測る中心温度計で、75°Cになるまで何度かチェックしてみよう。



POINT 3

内部が75°Cになった肉に2～3秒金串を差し、その金串を下唇の下に当て、ピリッと熱い感覚を覚えておこう。金串でおおよその温度がわかるようになれば、温度計を使うのは最後の確認時だけでいいので、効率アップが図れる。

ピリッと熱い
感覚を覚えよう！

